

26年12月分 製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成26年 11月20日～ 26年12月10日

2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
12月分の回答企業数は9社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/12月	27年1月	2月
入荷動向	国産材製材品	△ 11.1	5.6	11.1
	外材製材品	△ 16.7	△ 22.2	△ 16.7
	その他	0.0	0.0	0.0
販売動向	国産材製材品	△ 11.1	△ 11.1	△ 5.6
	外材製材品	0.0	△ 5.6	0.0
	その他	0.0	△ 8.3	0.0
在庫動向	国産材製材品	△ 5.6	11.1	11.1
	外材製材品	△ 11.1	△ 16.7	△ 22.2
	その他	0.0	0.0	0.0

・国産材製材品の入荷は12月の減少から27年1月、2月は増加に、外材は3ヵ月連続して減少、その他は横ばい。
・国産材製材品の販売は3ヵ月連続して減少、外材及びその他は12月の横ばい、27年1月の減少、2月の横ばい。
・国産材製材品の在庫は12月の減少から27年1月、2月は増加に、外材は3ヵ月連続して減少、その他は横ばい。

(2) 価格動向 Weight. D. I.

品目		26/12月	27年1月	2月
スギ	柱角 KD10.5×3	0.0	0.0	△ 5.6
	柱角 KD12×3	0.0	0.0	△ 5.6
	通し柱 12×6	0.0	0.0	△ 7.1
	桁角	△ 5.6	△ 5.6	△ 11.1
	母屋角	5.6	5.6	△ 5.6
	タルキ	5.6	5.6	△ 5.6
	間柱	0.0	0.0	△ 5.6
	加工板	0.0	0.0	0.0
	ヌキ	5.6	5.6	△ 5.6
	平割	6.3	0.0	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	△ 16.7	△ 11.1	△ 5.6
	柱角 KD12×3	△ 16.7	△ 11.1	△ 5.6
	土台角 10.5×4	△ 16.7	△ 11.1	△ 5.6
	土台角 12×4	△ 16.7	△ 11.1	△ 5.6
	通し柱 12×6	△ 12.5	△ 12.5	△ 6.3
カラマツ土台角10.5×4	0.0	0.0	0.0	
米マツ平角	27.8	33.3	16.7	
米マツ割物	38.9	38.9	16.7	
北洋エゾマツタルキ	25.0	25.0	37.5	
北洋アカマツタルキ	21.4	35.7	35.7	

・スギ製材品の価格は総じて12月、27年1月の保合から2月は、わずかに弱保合に。
・ヒノキ製材品は、総じてやや弱保合。
・カラマツ土台角は横ばいで推移。米マツ平角、割物、北洋エゾマツタルキ及びアカマツタルキは強保合ないしやや強含みで推移。

モニターからのコメント

(荷動き)

- ・入荷は様子見の模様、実需の動きが悪い、在庫は減らしている段階、入荷は年明け以降か？
- ・原木市況が好転してないが、一般大工、工務店の動きは鈍い。
- ・ヒノキ、スギ等国産材は順調に入荷、外材製品は品不足の材種や寸法が多くなった。国産材価格は弱含み保合、外材は為替と入荷減で川上では先買い傾向が拡大。国産材は安定供給が出来る状態、外材は在庫の減少が更に進んでいる。
- ・国産材入荷順調、相変わらずWW間柱、アカマツタルキ3m少ないが、他は順調入荷。販売は国産材の動き悪い、WW、アカマツは円安で単価値上がりにより動き悪い、消費税先延ばしの影響が大きい。在庫は仕事少なく国産材増加、1月初売りのため在庫増加。
- ・入荷変わらず。販売低調、原木出材減。
- ・販売は、円安のため外材は値上がり（WW、アカマツ、LVL）ヒノキ、スギは横ばい。WW在庫減少。
- ・スギ丸太は、全体的に弱気、ヒノキ丸太も土台用を中心に弱気で、製品も当用買いたが、買方の買い支えもあり、タルキ、母屋等の売れ行きは堅調。また、来春稼働予定の大型工場バイオ発電用丸太の需要逼迫も懸念され、大きな下げは考えられない。外材は為替の影響あり、今月200～3,000円の値戻しも・・・？

(価格動向)

- ・スギは全体的に下げ圧力が強い。ヒノキは丸太価格の下落に伴い製品単価も全体的に下げ傾向。米マツは円安から価格を上げたいが、実需が伴わないため横ばい。北洋エゾマツタルキ、アカマツタルキは実需次第の模様。
- ・スギは原木高止まりも市況悪く、製品に転化できない。GRN材は若干の強気。ヒノキはスギより相場は低調に推移。
- ・スギ構造材は、乾燥材の価格は安定、GRN材は弱含みで推移、スギ羽柄材の荷動きはあまり良くない中、安値で安定。ヒノキ構造材の荷動きは良くなく、弱含み保合、米マツは輸入材全体の傾向としてコスト高と在庫減で強含み保合。北洋エゾマツ、アカマツタルキは港湾在庫は少しずつ減少している中、保合傾向。
- ・スギ柱角（KD10.5cm、12.0cm）60,000円/m³、スギ桁角（東北グリーン材）40,000円/m³、母屋角（東北グリーン材）40,000円/m³、スギタルキ（東北グリーン材）45,000円/m³、スギ間柱（KD）66,000円/m³、スギ加工板（グリーン材）東2,800円、（KD）東3,800円、スギヌキ（東北）40,000円/m³、（秋田）50,000円/m³、スギ平割（プレーナー）45,000円/m³、（ラフ）38,000円/m³、ヒノキ柱角・土台角（KD）85,000円/m³、米マツ平角68,000円/m³、米マツ割物65,000円/m³、北洋アカマツタルキ（S）66,000円/m³、（P）57,000円/m³。
- ・スギ大きな動きはない。ヒノキは非動き低調。